

令和 3 年第 3 回奥出雲町教育委員会定例会会議録

日 時 令和 3 年 3 月 1 7 日（水）
開 会 1 5 時 0 0 分
閉 会 1 7 時 0 5 分
場 所 横田庁舎 2 階 第一会議室
出席委員 福田充雄教育委員 荒金勇吉教育委員 谷尻圭子教育委員
高橋美奈教育委員
委員会事務局 永瀬教育魅力課長 吉川結婚子育て応援課長
岸本教育魅力課課長補佐 長谷川教育魅力課長補佐

松田教育長

15 日に人事異動の内示を各小中学校に行った。初任研関係、新採関係は現段階では確定しているが、阿井、横田小学校は急な人手が必要となったため探しているが見つかっていない。来年度から初任者が特別支援学級を担当しても良くなったため、23 日以降に本人の意向確認等を行う予定にしている。特別支援学級を初任者が担当するならば指導員もある程度勝手が分かっている者を配置する必要があるため配置が確定していない。複式指導も学校から 3 名の要望が出ているが、現在 2 名しか確定していない。最初の定員はどうか埋まったが、町補充等についてはまだ確定していない。今年度は三十数名程度、特別支援員を配置して欲しいと各学校から要望があったが、3、4 人程度しか児童のいない教室に配置する必要はないと判断し、財政面からも 22 名の枠を取り、うち 19 名が決定している。残り 3 名のうち、2 回目の募集で 2 名の応募があり面接を行う予定にしている。場合により、もう 1 度募集を行う必要があると考えている。産休育休の補充が出来ないことが一番の問題だと思っている。3 月の議会では教育委員会に対して GIGA スクールや学校再編などの質問が出た。2 月末から各校区で開始した特別協議会では様々な意見を貰っている。

※開会宣言 教育委員の出席者数を確認し、会議の成立を宣言

※会議録署名委員 福田委員

次の報告について、説明をお願いします。

事務局

議案第 2 号 教育大綱及び教育振興基本計画について

※資料により説明

教育大綱は、教育行政の組織及び運営に関する法律の中で策定が必須となっている。それについては平成 28 年 3 月に総務教育会議の中で当時の教育委員、教育長、町長で策定されている。教育振興基本計画は教育基本法に定められているが、市町村は努力義務のため奥出雲町では現時点で教育振興基本計画という名前のものは策定されていない。だが、奥出雲町の教育という冊子が平成 24 年 3 月の定例会で継続

	<p>審議を経て策定されている。当時のレジメ等からこの冊子は平成 23 年 4 月の定例会で奥出雲町教育振興プラン策定計画という名前で協議が始まり、学校教育だけではなく、社会教育、体育関係、文化関係を包括するプランを一年かけて策定する計画であり、これが最終的に奥出雲町の教育という冊子になり、この冊子に基づいて 10 年程度の時間をかけて教育をしていく予定だったことが分かった。国は明記をしていないが、教育大綱は 5 年程度が改修の目安にあたるという表記があり、令和 3 年 3 月が 5 年目にあたるため見直しの時期だと認識している。しかし、すぐに策定出来るものだとは思っていない。事務局の中では、学校再編の具体的な方向性が決まった後に大幅な改修を行うか、令和元年に策定された 18 歳の目指す子ども像と整合性を取りながら短い期間での改修を行っていくか話し合いをしており、具体的な案を出せる状況にない。教育委員の意見を取り入れながら時間をかけて改修していきたい。</p>
松田教育長	質問、意見はあるか。
福田委員	町としての教育大綱の改修の見通しはどうなっているか。
事務局	下話として事務局の中では 18 歳の目指す子ども像を基本にした 5 年未満の暫定的な大綱を示し、その間に学校再編を見越した大幅な改修を行った大綱を策定し、それに置き換えるという方法もあると話している。
福田委員	教育大綱が基本であり、定まっていなくて教育振興基本計画は作れないと考えている。事務局から提案があっても大綱の改修の進捗が決まっていなくて議論にならないでは。
事務局	前提として大綱は必ず策定しなければならない。しかし、大綱に匹敵する内容であれば教育基本計画を大綱に置き換えることは可能であるため、大綱の改修、基本計画の策定、奥出雲町の教育の更新版を作るなど様々な方法がある。年度の早い所でどの方法で大綱の改修を行うか決定し、取り掛かれればよいと思っている。
福田委員	大綱と計画を分けている市町村、大綱に計画を含めている市町村どちらもあるが、振興政策の柱が定まっていればそこに付随させるのは難しくないと思っている。18 歳の目指す子ども像を達成するには教育環境をどの様に作っていくかが重要であるため振興政策の基本部分は早期に作成する必要がある。町の基本計画は学校等から全ての英知を集めて作成する方がいいと思うが、学校教育についても社会教育についても頼りになる何かが無いと動きが取れない。基本部分は早めに検討することが必要ではないか。
谷尻委員	以前の大綱の策定に関わったが、学校再編などもあり、まったく新しいものを作る必要はないと思うが、大綱の改修は必要だと思う。

荒金委員	<p>大綱の大枠は変えなくても良いと思っているが、細かな部分の修正は必要ではないか。今年度から来年度にかけて時代の動きを見ながら大綱を改修していく必要がある。</p>
松田教育長	<p>基本的に総合教育会議での協議が必要だが、いきなり協議を行っても策定は出来ないと思っている。そのため、手掛かりとして教育振興施策の大綱を基に奥出雲町の教育等を加えた素案にあたるものを教育委員会で作成、提案をし、それを基に審議を行う課程で大綱を策定出来ればよいと思っている。その途中には社会教育担当の意見を貰う必要があると思っている。学校再編や町の総合戦略の教育に関わる部分を加味しながら来年度、再来年度の1～2か年をかけて検討していく予定でどうか。</p> <p>(異議なしの声あり)</p> <p>本案は提案のとおり可決された。</p>
事務局	<p>報告第2号 令和3年度当初予算について ※資料により説明 結婚子育て応援課 結婚対策として結婚子育てコンシェルジュ事業、縁結び活動支援事業を活動費として計上している。この2つの事業は前年度からの継続事業。婚姻届けレッスンは、令和元年度は40件の申込に対し令和2年度は2月末までに46件の申込があり増加傾向になっている。出生数は、平成28年度から減少傾向だったが、令和元年が50件に対し今年度は2月末までに51件届けがあり僅かだが増加の傾向がみられている。出生傾向の対策は少子化対策の重要課題の一つであるため継続していく。子育て情報発信事業については、町ごと子育て奥出雲というホームページ、こそだつという子育て情報誌をこれまで年4回発行していたが、令和3年度は年3回に発行を減らし、その3回の内の1回は、ふるさと定住財団を通じて県外に在籍している学生向けに配布する計画。ファミリーサポート事業については、令和2年度からの新規事業で試行的に三成地区に限定して行っている。令和3年度は拡大も考えていたが、受け入れ先からこのまま試行的にやりたいと意見があり、令和3年度も三成地区限定で試行的に継続していく予定。屋内型子どもの遊び場づくり事業については、今年度の新規事業で鳥上幼稚園を使って試行的に年4回のイベントを行った。4回合計で53組170名が参加した。令和3年度は年間を通じて毎週土日の開催を予定していたが、引き続き試行的に月4回、年52回のイベント形式で事業を行う予定。病児保育事業については、令和3年度の申込の取りまとめが終わり39件の登録があった。今年度は79件の登録があったが、小児科外来の患者が少なかったため2月末で12名の利用だった。この登録は一歳以上が該当になっているため令和3年度中に1歳を迎える幼児が新規に登録するものと思っている。放課後児童健全育成事業は、令和3年度の登録が終わり275名の登録があった。今年度が295名だったため20名程度の減少。関連で来年度の幼稚園の入園申込は4月1日現在で327名、</p>

	<p>来年度末は見込みを含めて 364 名の予定。</p> <p>教育魅力課</p> <p>小中学校における学習用 IC チップの活用で、今年度は GIGA スクールの端末整備を行っており 3 月末までに端末を 1 人 1 台整備する予定にしている。1100 万については、運用経費に充てており KDDI へ端末通信料、ソルコムへの運用委託料としている。教育 ICT 用機器の整備については、特別支援学級の教材や教室の ICT 機器の購入に計上している。地域学習拠点運用費は、今年度横田高校の紫雲寮の隣に整備した学習拠点施設の運営経費。当初は指定管理を検討していたが、最終的に県との検討が難しい部分があり、最終的に炊事の部分と学生の生活の部分は横田高校の後援会に業務委託とし施設の管理は町が行う形となった。高等学校振興費の魅力化事業として 900 万を計上している。高校の魅力化事業として通常経費を除く特別負担分で海外留学や校外学習等の様々な活動に係る費用。高校魅力化コンソーシアム事業についてはコンソーシアムのマネジャー等の人件費相当となっている。スポーツの振興について、スポーツ合宿推進事業は当初は事前合宿があったが、3 月時点で辞退になったためそれを除いた通常の合宿費と五輪応援の費用として 300 万のみを計上している。ホッケー振興事業は例年通りの強化補助金を計上している。文化的景観推進保護事業については、日刀保たたら屋根の修繕、絲原家住宅の待合の修繕に係る費用で 1000 万を計上している。</p>
松田教育長	<p>地域学習拠点施設は受け渡し完了している。今週末にはデザイン学校の隣にあるセミナー寮と呼んでいる建物の明け渡し期間が迫っており、今週末から来週の頭にかけて拠点施設へ子ども達が移動することになっている。23 日夕方に開所式を行う予定にしており、本来であれば全員に参加を願いたい、子ども達がすでに入居していることに加えコロナ禍という状況のため社会教育委員の会長 1 名、公民館館長 1 名を招き町長出席で開所式行う予定にしている。現在、学習拠点施設と呼んでいるが、子ども達が呼びやすい愛称を募集している。質問、意見はあるか。</p>
福田委員	<p>端末は全て導入されたか。</p>
事務局	<p>3 月頭に先行で 80 台導入しており、年度内にはすべて入る予定。</p>
谷尻委員	<p>屋内型子どもの遊び場づくり事業は企業に業務委託しているのか。</p>
事務局	<p>地域おこし協力隊に所属していた人が企業し、奥出雲町三沢に事務所を置いている株式会社オクリノに業務委託をしている。</p>
谷尻委員	<p>町内の方は会場の場所を承知していると思うが、町外から来る人は分からないのではないか。</p>

事務局	コロナの関係があるため対象を町内の子どもに限っている。
谷尻委員	里帰り出産のために町外から子どもを乗せて帰省している人は参加できないのか。
事務局	現状は参加できない。事前予約制で来年度は週 1 回程度の開催の予定にしている。
福田委員	会場は全て鳥上なのか。
事務局	来年度は全て鳥上で開催する予定にしている。
谷尻委員	この予算は人件費、水道光熱費、委託料等全て含んだ金額なのか。
事務局	含んだ金額。
松田教育長	他に意見がないため議論を終わる
松田教育長	<p>その他</p> <p>※別紙資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査結果 ・ふるさと教育アンケート <p>昨年度までは県が独自に作成したテストを使用して学力調査を行っていたが、今年度からは業者テストを使用し小学 5、6 年生、中学 1、2 年生を対象に全国的なテストが行われた。奥出雲町については小学 5 年生の算数、中学校 2 年生の英語は県平均に対して 3 ポイント以上のマイナス、中学校 1 年生の国語は 3.3 ポイントプラスだったが、全体の平均正解率は県の平均程度だった。県平均自体が全国平均と比較すると低いいため県との比較では大きな差はないが、全国と比較すると特に小学校がかなり低い。各教科の領域別では特に小学校の書くこと、条件のある作文がネックになっている。中学校の数学は比較的良いが、英語は読むこと、書くこと共に低い。教育委員会で独自に行っている仁多中校区、横田中校区、小規模校、小規模以外の学校を比較した詳細分析では、場所によって 10～15 ポイント程度低い点数が出ている。各学校で分析を進めているが、学力にテコ入れを行う必要がある。書く、分かりやすく伝える事が弱み。これに関連して今年の 2 月に小学 5 年生、中学 2 年生、高校 2 年生を対象にしたアンケートを実施した。今年 11 月に同じ児童生徒へ改めてアンケートを行い変化の調査を教育魅力課の取組としてあげている。昨年 11 月に実施したアンケートとの比較では力を入れたふるさと教育のポイントは上がっていないが、学力調査結果では学校・地域への愛情、自己肯定感等に関する質問では全国や県よりも高いポイントが出ている。逆に日本や社会の動きへの関心、インターネットニュース等を見ている等の項目が低いいため小中学校の校長会、高校へこの結果を送りそれぞれに取り組みをお願いしている。</p>

谷尻委員	新聞を取っていない家庭があり、それが出ていると思う。新聞づくりをしている時は読むが、それ以外の時は読まないことが多いのではないかな。
松田教育長	高校生のポイントが低いことが大きな問題。小学校や中学校では一言スピーチでニュースの話題が出てくるが、これから全国に出て行って欲しい高校生が世界の動き等に関心がないのは問題。
谷尻委員	子ども新聞だけでも家庭で取ってもらえないだろうか。どうしたらいいかわからない。
松田教育長	意識の問題ではないかな。
荒金委員	GIGA スクールで一人一台端末が配布されるのであればそれを窓口にすればいい。本来は活字を見て欲しいが、このような時代になったのならばニュースサイトを見るよう指導するなど活用していくしかない。
福田委員	ふるさと教育は難しいと思っている。子ども達は奥出雲町の自然は豊かで素晴らしいと言うが、具体的に何が素晴らしいか説明できない。そのような現実があることを認識しながら指導していく必要がある。それに加え、子ども達に求めるだけでなく大人達も子供の手本になる姿勢を見せていかなければならないのではないかな。現在、地域で小さな拠点づくりをしているが、子ども達も参加するシステムを作り全員でふるさとを見つめていく必要がある。金太郎あめのような決まりきった単純な体験学習ではなく、自身が考える事ができる学習でなければならない。教育計画も含めて見直さなければならない時期を迎えている。
松田教育長	※資料で追加説明 総合的な学習は本来、探求型課題解決が目的だったが、体験型に変わってしまったため子ども達が考える力が弱くなってしまった。GIGA スクールで小学1年生から中学3年生まで1人1台端末を持つことになったが、これをどう使っていくかが大きな課題だと思っている。便利なものだが、使い方を間違えると毒にもなる。
事務局	任期満了教育委員 任期満了の教育委員の選任。福田教育委員の任期が5月24日に満了を迎えるが、3月19日の議会で教育委員の任命同意を提出する予定にしており、5月以降も引き続き教育委員として関わってもらう。 学校再編協議会 学校再編協議会は、2月末から各校区を回り前回の定例会で示した町からの具体的な4つの提案を話した。校区別協議会の代表者会議を来年度行う予定にしており参加する人の選出、各校区別協議会の調整役の選出をお願いしている。また、4つの

	<p>提案に対しての意見要望を各校区で取りまとめること、4つの提案以外に各校区の意向を取りまとめるために明確にする必要がある事項があれば報告して欲しいこともお願いした。11月12月の準備会で協議会の立ち上げをお願いしたが、各校区によって状況が異なっている。布勢地区は2月の校区別協議会の後、協議会メンバーを決定し、独自に保護者向けのアンケートを実施している。三沢、阿井、馬木、高尾、亀嵩地区はメンバーが確定している。横田地区は町からの提案内容に住民に関わる部分が少ないため、自治会長会会長と保護者代表が相談を行い保護者代表のみがメンバーになっている。八川、鳥上地区はまだ協議会メンバーが確定していない。三成地区は、町としては協議会メンバーが確定しているという認識だったが、三成地区としては学校再編後の小学校が仁多中学校の横に移転することを前提にした協議という認識だったため、再度メンバー構成を検討している。各校区から様々な意見を貰っており、その一つとして仁多中校区の新小学校校舎をどこに建築するか提示されなければ検討が出来ないという意見を貰っている。町としても3月中旬に候補地を提示する準備を行っていたが、間に合わず4月以降の提示になると説明している。遅くとも5月の代表者会議までには提示したい。</p>
松田教育長	<p>特に仁多地区で問題になっているのは布勢、三成小学校の耐震問題。耐震の不安がある建物に子どもを通わせている現状をどうするのかという不安の声を貰っている。新仁多中校区の小学校校舎は、三成小学校校舎を改築し新校舎にすることを検討しているが、再編が行われる令和7年度まで耐震に不安がある三成小学校校舎に児童が通わなければならないなどの問題があり、議論を重ねるうちに建築予定地の提示が遅くなってしまった。それについて該当校区から不満がでてきている。さらにバス通学の問題があり、スクールバスを使用すればよいという意見があるが、町としては多くのバスを用意することは現実的にできないという認識であり、そのことを説明する必要がある。質問はよろしいか。</p>
事務局	<p>事務連絡</p> <p>令和3年度の定例会は配布資料の日程を予定。4月21日に予定している新任教員の挨拶会については、去年はコロナで中止したが、今年は新任教員に町外出身者も含まれているため事務局としては開催をしてはどうかと思っている。委員の皆様に見えていただきたい。</p>
松田教育長	<p>奥出雲町の目指す子ども像、本日の定例会でも出された課題等を知ってもらうためには顔合わせは必要だと思っている。出来るだけ広い会場を使用し挨拶会を行う方向で動きたい。</p>
福田委員	<p>開催できるのであれば開催する方が良い。初めて奥出雲町に就任する教員は奥出雲町の概要を知る機会になり、お互いの顔合わせになる。教育委員会との顔合わせをすれば今後様々な場面で話がしやすいのではないかな。</p>

松田教育長

挨拶会については開催の方向で進める。4月1、2日に県職員の辞令交付式を予定していたが、県が中止したため奥出雲町でも県職員に関しては中止にした。4月5日に町で雇用する会計年度任用職員である校務技師、学びのサポーター、特別支援員を招集し、業務内容と勤務条件等の説明を予定している。また、管理職の教員についても説明会を予定している。ご承知をお願いする。

< 次回定例会は4月21日（金）午後13時半～（予定） >

会 議 録 署 名

署名委員

福 田 亮 雄

教育長

松 田 武 彦